

〔戯曲〕

巡礼の道  
最後の一步

ほうらい 満

青山ライフ出版

## 目次

【第一幕】	.....	3
【第二幕・白水阿弥陀堂】	.....	9
【第三幕・五浦・天心美術館】	.....	20
【第四幕・五浦六角堂】	.....	30
【第五幕】	.....	37
【第六幕・鋸山】	.....	45
【第七幕・東京湾フェリーの甲板】	.....	59
【第八幕】	.....	67
【第九幕】	.....	76

# 【第一幕】



## 《プロローグ》

筑波山と西に沈む落日をみながら、小貝川のほとり、イッポはひとりたたずむ。イッポのころは常に「漂流」している。バックミュージック「第三の男」が流れる。

イッポ、満七十歳、古希である。彼は、四人の著名人を彼の魂の重力レンズと信じている。その四人に共通する言葉があった。それは「反骨」である。一人目は親鸞。『非僧非俗』…僧にあらず俗にあらず…彼は、その言葉を自分に置き換えた…十一年前、宗教組織を離れたときから。二人目は、内村鑑三。『後世への最大遺物』という書物（講演記録）を読んで、「小説は誰でも書ける」という内村鑑三の言葉に触発され、それから愚作を紡いでいる。そして今、この「巡礼の道」最後の一步を、イッポ自らの「最大遺物」として、戯曲を仕上げようとしている。三人目は、岡田茂吉。イッポは、縁あって、身近な祖霊たちの導きがあつて、岡田茂吉を開祖とする宗教組織に入信、そこで彼は、今自ら体得した世界観や人間観の根幹をなす有神観念を、確固たる信念とすることができた。開祖から得たさまざまな教えの中で、最も彼をしびれふるえさせたの

は何といつても『ひな型観』である。今、「誰も取り残されない持続可能な社会をめざす」ということが叫ばれ、まさにこの社会とは、『ひな型観』に立った社会そのものではないか、と彼は思っている。すべての人の魂には、造物主からその使命を与えられ、生き変わり死に変わりその使命に向かつて輪廻している。すべての人は、それぞれの価値を与えられ、大自然の前には人間は「平等」であり、「格差」を生じてしまった社会は「程々」のところに戻さなければならぬ。直径が九ミリになったら地球はブラックホールになるといふ。大宇宙の中心は銀河系、銀河系の中心は太陽系、太陽系の中心は地球、地球の中心は箱根・強羅、そこに岡田茂吉の『ひな型構想』によって、七十年前『神仙郷』という「理想世界のひな型」は完成した。イッポは、宗教と科学の一致点は、九ミリになった地球から生まれた原始ブラックホールの特異点ではないかと。「九」という数字、イッポはその数字を「再生インフラトン」と呼称し、それは「やさしさ」の象徴であると：九ミリになった地球は「やさしさ」に満ち溢れた世界だと、『神仙郷・ひな型』とは、「やさしさ」という未知なる素粒子が溢れ出る世界だと、自我持論を持つている。四人目は松前重義。イッポは、その創立した大学を一応卒業、そこで「望星」という言葉と出会った。彼は、数年前に書いた「しんげんだいぶんめいろん考」という愚作の完成によって、やっと、やり残してしまつた卒業研究論文を提出したという実感を得ることができた。それから「望星」という言葉が、待っていたかのようにこころの中に染み入り、「人の喜びと利益を最優先する」というこれからの自

分づくりを、世阿弥の言葉「誠の花」「老骨に残りし花」を心に刻みつつ、新しい青春を「望星心」と呼称した。その「望星心」をもって、福島・いわき市から箱根・強羅『神仙郷』までの「巡礼の道」最後の一步」をつくり、そしてそのプロセスを演劇、または人形劇とし、彼は「最大遺物」としたいという無謀な自我への挑戦は始まった…。いわき市を出発点としたわけは、作家・五木寛之氏の『百寺巡礼』から「白水阿弥陀堂」というところを知ったからに他ならない。そこに安置されている観世音菩薩には、この「巡礼の道」にご同行してもらおうという、霊界からの周到な計らいもあつたようだ。

岡田茂吉がつくった宗教組織を離れ、「巡礼」という手法で、百三十八億年前の宇宙創成時の原始ブラックホールの唯一の痕跡、箱根『神仙郷』という『ひな型』の原点に導かれる。そして、「望星心」をもって、やっととはつきりした想いを現世の遺物とし、来世に繋がる旅は始まった。

## 《岡田茂吉》

神仙郷の神山荘、観山亭、石楽園を背景に、落語の枕のような感じで、岡田茂吉を紹介する。

えー、…ある日突然と申しましょうか、その日は定かではないのですが、昭和の初め頃と言っておりますけれども、お腹の中に突如として光の玉が宿ったという前代未聞の貴人がおりまして、その光の玉というやつは、いわゆる如意宝珠でございますなあ、本人は見真実の境地なんてえ申していたようでございますけれども、お釈迦様は七十二歳、日蓮上人は五十余歳、たそうで、その変わり種はその時が四十五歳、そのころを境に、実業の道を離れ、いわゆる、なんですなあ、神がかりといえますか、様々な宗教でえものはみんなそんなようなわけでして、その後、その男の背後に千手観音様がもくもくと舞い上がったてえゆう奇妙な写真が撮られたようなこともあって、嘘のような、本当のような、嘘かもしれないしそうでないかもしれないし、要は、名実ともに宗教家としての道が始まったようであります。そして、戦前は宗教というもの統制が厳しく、民間療法の看板を掲げてやっていたようで、戦後は信教の自由なんてえことになりました、いわゆる宗教法人として、なんですなあ、多くの弟子たちにも恵まれ、飛ぶ鳥を落とすような勢いでもって大発展を遂げるわけですけれども、苦楽一如と申しますか、そのことが逆にあだになってしまい、GHQの家宅捜査、あげくのはてには刑務所へしょつ引かれるてえゆうはめになってしまいます。しかし、摩訶不思議、その獄中で今度は、もともとあったお腹の光の玉に最高最貴の神御魂が宿するという、その時からメシヤなんてえことになりました、なんか…へ居酒屋の親父みたい…ですけれども…これも嘘か真か、真か嘘か…あったようでございます。さ

て、その最高最貴の魂のこと、なんですけれども、素数は創造主の暗号なんてえことを言いますが、コンピュータの発達によつて、新しい素数が発見され、何と、1が十九桁連なる素数があるようでございます。実は。その素数こそ…その神御魂くなんくで…。1を素数で割つて生まれる循環小数の繰り返しを循環節、その循環節も十九、十九づくめで、ジュークという名前の由来はここからきておりまして…ジューク小論文てえゆうわけであります。